

平成 19 ～ 21 年度 中国ブロック統合のメリットを活かした事業

発達段階に応じた リーダー養成プログラム の開発と試行（報告書概要版）



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立 吉備青少年自然の家
国立 山口徳地青少年自然の家
国立 江田島青少年交流の家
国立 三瓶青少年交流の家

事業のアウトライン

研究のポイント



すべての青少年が持ちうる「リーダー的力の形成」をはかるプログラム開発

自己肯定感に裏打ちされたリーダー的力は、特定の青少年にのみ限定されるものではなく、現代青少年のすべてが持ちうるあるいは持つべき力量ではないかという捉えから、すべての青少年が持ちうるあるいは持つべきリーダー的力の形成を本事業で開発するプログラムの目的に置いた。



リーダー的力を形成するために、「個の確立」「自立力」「社会参画力」の育成・支援

自立的・協働的なリーダーとして明日の社会を生き抜く力を青少年が獲得するため、

- 1 自己肯定感や自己有用感の効用につながる「個の確立」
- 2 社会で人間関係を創りながら自立的に生きていくための「自立力」
- 3 社会で主体的に貢献していく存在となる「社会参画力」を育成支援する必要があると考え、それらを引き出した育成できるプログラムを発達段階に対応させ開発することとした。

事業の枠組み

少年期

自然体験的活動を通じて他者と関わりを持つなかで自分をよりよく知り、「ありのままの自分」と「ありのままの他者」を受容できるプログラムづくり

青年期

体験的・実践的活動を通じて他者との関わりを主体的に創っていくなかで、自分をよりよく知り、社会の中で「こうありたい自分」や「なりたい自分」を見つけ、それが叶うための態度を醸成するプログラムづくり

《年齢段階における位置づけ》

小学生期

自己肯定感の受け皿育み期

中学生期

自己認識・他者認識の深化期

高校生期

社会参画に向けた自己実現助走期

大学生期

社会参画による自己実現試行期

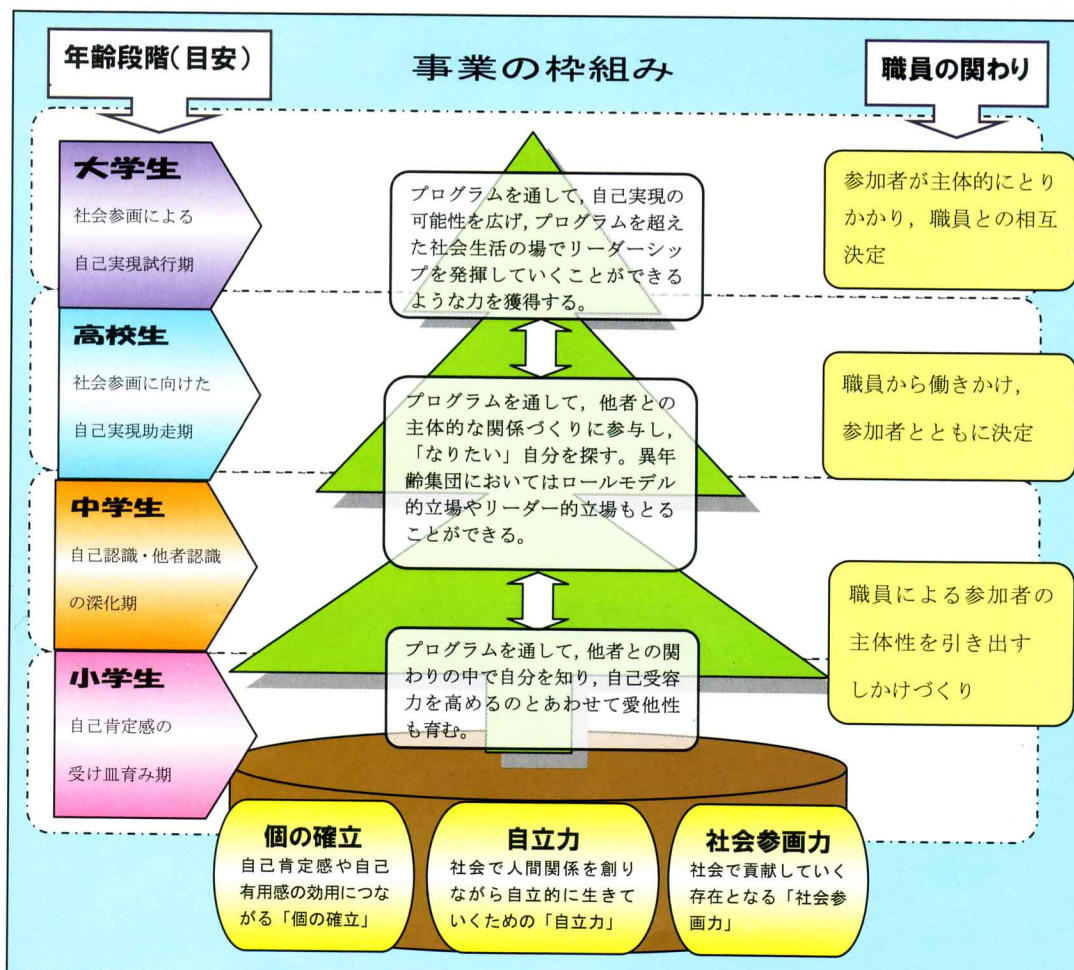
《事業実施》

吉備青少年自然の家

山口徳地青少年自然の家

江田島青少年交流の家

三瓶青少年交流の家



年齢段階について

年齢段階はあくまでも目安であり、抱えた課題によっては異なる年齢段階のプログラムを、当該年齢段階の青少年で実施することもある。

また、一歩前を行く年齢段階の青少年が、後進の青少年のロールモデルとして機能するという形で、異年齢段階にある青少年が共に1つのプログラムの対象になるという可能性もある。こうした柔軟な組み合わせに対応していくことも本事業の枠組みのなかでは想定している。

職員の関わりについて

青少年が社会参画できる力を獲得し得る支援をする必要があることから、ロジャー・ハートの「参画のはしご」を意識した関わりとする。

【指導・助言者】

広島修道大学人文学部

山川 尚美 教授

事業の成果

3つのプログラム目標の設定

プログラム目標を設定するにあたっては、「個の確立」「自立力」「社会参画力」の育成を、より具体的なプログラム内容が想定できるように、「新しい自己の発見」「対人関係能力の見直し・育成」「社会参画意欲の向上」という3つのプログラム目標に転換させた。

育成・支援する力

個の確立

自立力

社会参画力

転換

プログラム目標

新しい自己の発見

対人関係能力の見直し・育成

社会参画意欲の向上

プログラム評価アンケートの実施

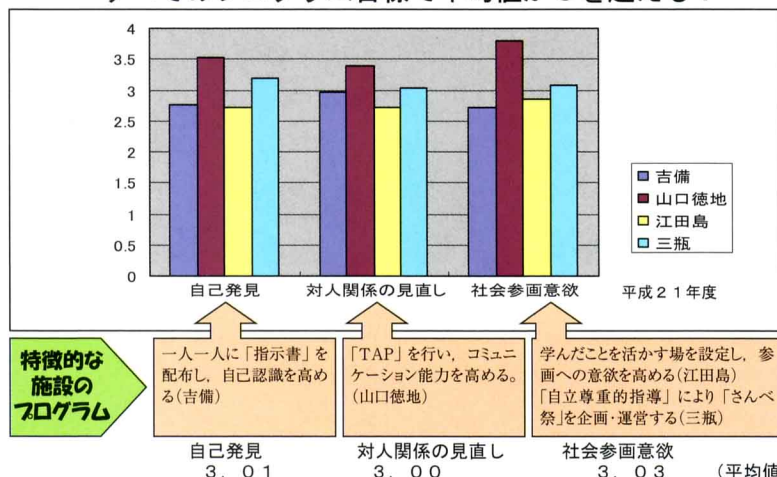
3つのプログラム目標に対する達成度を4段階で自己評価する項目を設定。

あわせて、当該達成度の自己評価につながった要因を仮説的に発見するために、各施設が個別に設定したプログラム内容(アクティビティ)に対する満足度を尋ねる項目も配置し、達成度とアクティビティの関係も分析。

(アンケートは原則最終日に実施)

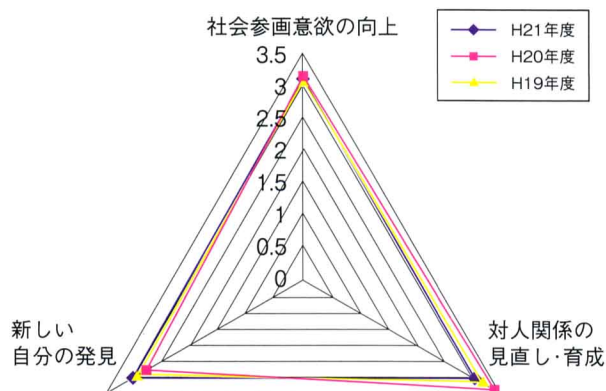
参加者からの高い自己評価が得られました

すべてのプログラム目標で平均値が3を超える！



3つのプログラム目標が相互に関連し達成度を高めた可能性が推察されます

各施設の平均値は3年間を通して、概ね3つの目標とも3前後の高い自己評価！



参加者からの高い満足度が得られました

満足度平均値は90%を超える！ 平成21年度

実施施設	対象	満足度 (%)
吉備	小学生	96.4
山口徳地	中学生	94.9
江田島	高校生	88.0
三瓶	大学生	87.1

～事業で学んだことが、現在の生活で活かされています～

事業後の参加者の変容

【保護者の声】

- 「僕がやる」と、何でも色々と一人でやるようになった。(吉備)
- 近所の低学年の子に関わるようになったり、自分で決めたことを守ったり、実行しようとする余裕も出てきた。(吉備)
- 父親の私と娘は会話があまりなかったが、事業後からは学校であったことなどを、よく話してくれるようになった。(山口徳地)

【学校の声】

- 安易に多数決で決めたり、発言権の強い生徒の意見に流されたりする傾向がなくなった。(山口徳地)
- 協議・決定を行う場面での司会等を、積極的に行う姿が見られるようになった。(山口徳地)
- 本事業は、社会性など生徒の力をつけるのには最適な実践であると感じた。(江田島)

【参加者の声】

<自己発見>

- A 他の人の世話が大切だと思えるようになった
- B 自分のよい点などを見つめられるようになった

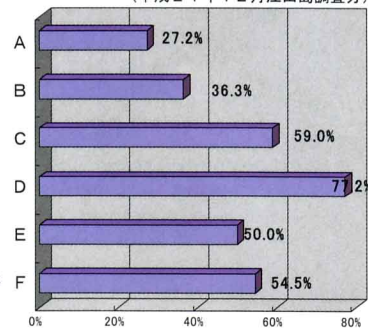
<対人関係>

- C 人前で堂々と意見が言えるようになった
- D 周りの人たちの関係を大切にするようになった

<社会参画>

- E 社会の一員として活動したい気持ちがわいてきた
- F 積極的な行動がとれるようになった

(平成21年12月江田島調査分)



【地域の声】

- 本事業の参加者が作った歌を歌う姿を、卒業式後に見た。大変りっぱな姿で、地域のリーダーになっていると感じた。(江田島)
- 大学生がさんべ祭の企画・運営で一生懸命参画している姿を見て、元氣や勇気をもらった。」という評価を受けた。(三瓶)

自分を見つめて！

「小学生リーダー育成事業」

国立吉備青少年自然の家

小学生

(自己肯定感の受け皿育み期)

【趣旨】カッターやソロオリエンテーリング、暗闇探検など集団と個の活動を効果的に取り入れた自然体験を通して課題解決のための合意形成・集団維持の必要性を感じるとともに、自己決定やコミュニケーション能力を高める。

【期日】平成21年8月10日(月)～8月12日(水)

【企画・運営のポイント】

指示書の活用

自己認識を高め、よりよい対人関係を形成するためキャンプの最初に参加者一人ひとりに対して“ひみつの個人指示書”を配付した。「誰がいつも話し合いの口火を切っているでしょうか」「自分の考えをはっきりと言える人。他の人の考えをしっかり聞ける人は、だれでしょうか」等の課題により、他者への気付きや合意形成への意識を促すような仕掛けとした。

合意形成の場面

集団における合意形成過程を体験・実感させるため、“グループ指示書”を配布して課題解決型のカッター活動を実施した。そこで与える課題は、ロールプレイング型ゲームに馴染みの深い小学生高学年の実態を踏まえ、「海賊島に上陸せよ」「アイテムをゲットせよ」「フリップ君を救出せよ」など、冒険味あふれゲーム性の強い構成とした。

活動の循環

オリエンテーリングでも“グループ指示書”を活用し作戦タイムの重要性を意識させるとともに、ソロ活動に移行しやすくなるような仕掛けを作った。実施中にも作戦タイムを設けることを規定し、作戦修正等の機会を与えた。ソロ活動の結果からグループへのフィードバック、グループからソロ活動へのフィードバックの循環を促した。

【活動の実際】

アドベンチャーカッター

初めて出会った仲間が3つのグループに分かれて乗船し、安全上の決まりと基本的技術だけを学習して操船開始。手渡された指示書にしたがって、海賊にとらえられたフリップ君を救出に向かう

カプラ(積み木)

15,000ピースのカプラを使って、大作に挑戦するプログラム



アドベンチャーカッター

1日目



カプラで大作に挑戦

オリエンテーリング

チーム全体としてハイスコアを狙えるように作戦を立ててスタートし、高得点を目指すには、実行しながらそれまでのプロセスをふり返って、作戦修正の検討を加え続けて行くことが重要

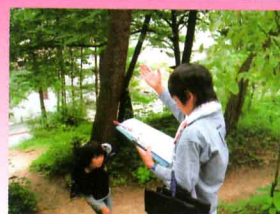
野外炊事

「作って、食べて、片付ける」キャンプ生活におけるもっとも

基本的な活動(メニュー:夏の煮込みうどん)

暗闇体験

暗い吉備の森を歩く活動

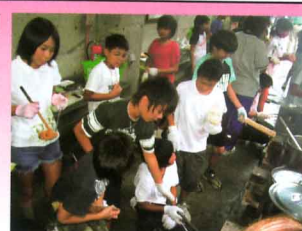


指示書を活用したオリエンテーリング



暗闇を歩く参加者

2日目



煮込みうどん作り

3日目

クラフト

3日間の活動場面をスライドでふり返り、その思い出を焼き板に表現しました。



焼き板作りをする参加者

指示書



【成果】

- 参加者アンケートの結果によると、「自己認識」の伸長を実感できた理由として「オリエンテーリングでキャプテンを務めたこと」や「カッターで船長を務めたこと」など、活動における人との関わりを挙げる者が多かった。6年生の実態として、子どもたちは、対人関係との連動の中で自己認識が伸長する機会を得ていることがうかがえる。「暗闇探検」や「道に迷うことで自分発見につながった」等、活動の中にソロ活動を組み込んだことも自己認識の伸長に功を奏していると考えられる。

【課題】

- 運営の仕方として、グループでの意思決定に先立ち、「個人での意思を持つこと」「自己決定すること」のプロセスを持つことが十分ではなかった。活動の配列や予備活動の配置にはさらに工夫が必要である。

仲間との人間関係をつくる！

「中学生リーダーセミナー」

国立山口徳地青少年自然の家

中学生

(自己認識・他者認識の深化期)

【趣旨】中学生を対象にリーダーの育成を意識した体験学習型リーダーシップセミナーを実施し、リーダーに求められる人間関係を築く力や課題解決能力と調整力を体験学習の中の気づきから学ばせ、グループワークを通して深化させ、次代を担うリーダーを育成する。

【期日】平成 21 年 12 月 25 日～27 日

【企画・運営のポイント】

他人から学び、自分を見つめる

地域の背景が異なる複数校合同で、様々なグループワークを行うことにより、学校間で刺激をもらい合い、お互いがロールモデルになりながら、参加者のつながりと学びを深めるプログラムを組み立てた。

多様なトレーニングによる学び

徳地アドベンチャー教育プログラム(TAP※1)やラボラトリー方式による体験学習(※2)の手法を用いて、リーダーに求められる「人間関係づくり」「コミュニケーション能力」「合意形成の進め方」等について学びの深化を図った。

Being



体験学習法では、アクティビティ後の「ふりかえり」を大切にしている。

「ふりかえり」の手法の一つに Being (ビーイング) があり、仲間の「合意形成」や「規範意識」の向上を図る。

【活動の実際】

～人間関係をつくる力を高める・チームをつくる～

【徳地アドベンチャー教育プログラムⅠ】(※1) 実習

- ① アイスブレイク
メンバー同士の安心感を高める
- ② 課題解決 (アドベンチャーコースを使って)
チーム内の安心感・信頼感・活動意欲を高める
- ③ 目標設定 (各校ごと)
個人の思いからみんなの思いへ、コミュニケーションの大切さを感じる

【心の安心について】「安心ってなあに…」講義「Ⅰ」

【グループワークトレーニングⅠ】実習

- ① 課題解決実習「タワービルディング」
・チーム力を実感する
- ② 合意形成実習「サバイバル」
・合意形成の過程を体感する

【徳地アドベンチャー教育プログラムⅡ】(※1) 実習

- ・ハイレLEMENT (安全が確保された高い場所での活動) コースにチャレンジ
- 仲間の支え、チャレンジの喜びを体感する



フープリレー～支え合った～



アドベンチャーコース
～仲間の力でできた～



タワービルディング～役割を分担して～



徳地アドベンチャー
教育プログラムⅡ

～実社会・生徒会運営にむけて自信と意欲を高める～

【コンセンサス (合意形成) の過程を学ぶ】実習

- ・合意をして決めるといったコンセンサスの体験

【生徒会目標・年間計画を立案する】実習

- ・個人の思いからみんなの思いへ

【他校から学び自校を見つめる】講義・実習

- ・各校の取組を紹介 実習



それぞれの発表・それぞれのスタート



個人の思いからみんなの思いへ

【成果】

- ・相手の思いを受け止める、自分の思いをわかりやすく伝える等、コミュニケーションの姿勢が変わった。
- ・3日間のプログラムを学校の生徒会活動と連動性を意識して企画・運営することにより、学びの深まりを生み出すことができ、実生活に活かす意欲を参加者に持たせることができた。

【課題】

- ・対象を広げて様々な中学生のグループで本プログラムを実施、改善していく。

※1 徳地アドベンチャー教育プログラム (TAP) …プロジェクトアドベンチャーの手法を基盤にしたグループワークを通して、協調性や信頼感を高めるプログラム (「体験活動ガイドブック」国立山口徳地青少年自然の家)

※2 ラボラトリー方式の体験学習…特別に設計された人と人とが関わる場において、「今ここ」での参加者の体験を素材 (データ) として、人間や人間関係を参加者とファシリテーターとが共に学ぶ (探求する) 方法。(南山大学教育推進GP HP)

あの先輩のようにないたい！

「パイオニアスピリットセミナー」

国立江田島青少年交流の家

高校生

(社会参画に向けた自己実現助走期)

【趣旨】 様々な分野でリーダーとして活躍している人々との出会いやコミュニケーション能力・自己表現能力などの演習等を通して、様々な場面でリーダーシップを発揮できる基礎力や実践力を養う。

【期日】 平成 21 年 8 月 22 日～23 日 (リーダーシップ養成編) 9 月～12 月 (リーダーシップ実践編)

【企画・運営のポイント】

ロールモデルとなる存在

参加者一人一人にロールモデル(具体的な行動技術や行動事例を模倣・学習する対象となる身近なモデル)となる存在を意図的に位置づける手法を用いた。

江田島ゆかりの講師

「社会への参画意欲」を高めるために、地域を見つめ、地域貢献につながる内容となる講師を選定した。

学んだことを活かす場

10月末の「フェスティバル江田島」のステージ発表を学んだことを活かす場と位置づけた。

【活動の実際】

リーダーシップ養成編

高校生オリエンテーション

- ・事業説明
- ・高校生の役割について
- ・アイスブレイク運営について

アイスブレイク

- ・高校生による指導と運営

地域貢献を考えよう

- ・「地域新聞」制作により江田島を見直す

夢をかなえる表現方法を身に付けよう

- ・歌を通して自己表現力を高める

- ・仲間と協力して発表する

自分達にできることを考えよう

- ・江田島の良さを入れた歌を考える

- ・完成した歌をグループで歌う



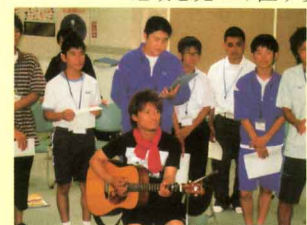
高校生による進行・運営



地域を見つめ直す参加者



グループで作った歌を披露



江田島の歌を練習する

リーダーシップ実践編(地域貢献活動企画・実施)

地域貢献活動(フェスティバル)準備会議

- ・高校生による会議準備及び役割分担

地域貢献活動(フェスティバル)企画会議

- ・高校生の指導による計画の立案
- ・チラシの配布計画及び集客計画立案

広報活動

- ・地元ラジオ局で地域貢献活動PR

地域貢献活動参加

- ・ステージの司会
- ・つくった歌(「海風とスマイル」)の披露

活動の反省及びアンケートの実施

- ・活動の反省と課題



準備会議



全体会議の運営を行う高校生



地元ラジオ局でのPR活動



バンドと一緒に作った歌の披露

【成果】

- ・事後評価でリーダーシップを考える上で重要な要素の「自己発見」「対人関係の見直し」「社会参画意欲」で90%前後が肯定的に評価。
- ・講師とともに江田島をアピールする歌「海風とスマイル～ここからはじめよう江田島」を作り全力で歌った。
- ・事業参加した高校生は、フェスティバルに参加したことで、周りの人たちとの関係を大切にようになるなど、リーダーシップが高まった。
- ・参加した江田島高校の生徒が、3月の閉校式で今回のセミナー参加についての経緯にふれ、セミナーで作った歌を、全校生徒で合唱した。出席者から高い評価を受けた。

【課題】

- ・追跡アンケートで「自分のよい点を見つめられるようになった」の質問には30%前後しか肯定的な回答がなく、今後「自己発見」のプログラムの充実を図っていく必要がある。

受講生が協力して作った歌

海風とスマイル～ここからはじめよう江田島～

♪ハローハロー(う)みの音

すぎとおる夜に 波よせてええ

キラキラあぁ かがやくよおお...

すまそう 波にのろうーあぁ

風たちも 静かにいいい

かげ ささやくうう ほらあぁ

江田島に海風 月明かり

星に照らされて 光っている

いつも 自然にあふれて

命がうまれてるううう

君こそが、未来のリーダーだ！

「さんべ夢ステージ」

国立三瓶青少年交流の家

大学生

(社会参画による自己実現試行期)

【趣旨】「リーダーシップ」をキーワードに、企画から運営までの過程で様々な体験を繰り返すことによって、リーダーとして必要な資質の向上を図り、将来地域社会に貢献できる人材を育成する。

【期日】平成21年7月3日～5日(企画力・運営力アップセミナー編)、8月～10月(想いを形にする編)、
10月23日～25日(夢が現実になる本番編)

【企画・運営のポイント】

自立尊重的指導

企画・運営について、参加者には最小限の講義・実習を行い、必要事項を伝えるのみとし、それ以外は、相談を受けたり支援者として関わったりするスタンスとした。
(相互決定)

リーダー的力量の形成

講師を招へいし、講義やグループワークから、企画・運営に必要な知識を学んだり、能力(コミュニケーション能力、合意形成能力、問題解決能力)を高めたりすることのできる学びの場を設定した。
(企画力・運営力アップセミナー編)

社会参画の場

様々な世代の来訪者と直接触れ合い、相互に想いを交わしながら企画を進行することによって、リーダーシップの役割を実践体感することができるため、地域の行事として定着している「さんべ祭」を参加者が社会参画する場とした。

【活動の実際】

企画力・運営力アップセミナー編

企画力・運営力アップ講座

企画・運営の知識や技能を伸ばす講義・演習

アクションプランの作成

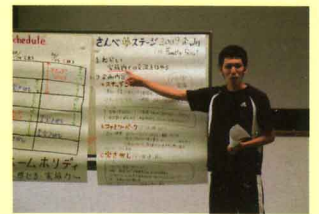
担当を決めグループごとの企画立案

<ねらい>

- ・企画・運営の基礎的な知識を身につける
- ・企画・運営に必要な様々な能力を高める
- ・さんべ祭での企画の概要を作成する
- ・良きリーダーシップのあり方を学ぶ



アイデアを出し合う



企画のプレゼン

想いを形にする編：全5回

夢ステージ企画の話し合い

及び準備

<ねらい>

- ・さんべ祭での企画を実現可能な形にしてい
- ・コミュニケーション能力を高める
- ・問題解決の能力を高める
- ・良きリーダーシップのあり方を学ぶ



プラとんぼを飛ばす



シンボルの旗作成

夢が現実になる本番編

夢ステージ準備

夢ステージ本番

<ねらい>

- ・企画を運営(実現)する
- ・想いを人々に発信する(伝える)
- ・良きリーダーシップを発揮する



最終打ち合わせ



参加者への呼びかけ



省エネ発電に挑戦



未来のリーダー

さんべ祭

【成果】

- ・大学生の参加者同士が、確実かつ迅速に情報の共有化を行うために、メーリングリストを自主的かつ積極的に活用した。また、参加者自身のネットワークにより、「さんべ祭」の運営スタッフを確保した。
- ・「さんべ祭」実施後のアンケートでは、「仲間のありがたさが実感できた。やりたいことができた。また、企画・運営してみたい。」等の感想を書いたり、実際に社会参画(ボランティア活動や公民館活動への参加)をしたりしている。(実施後のアンケート・聞き取り)
- ・ステージを中心に参加者が様々な企画・運営を実施し、来場者からは、「青少年が参画した祭」と高く評価されていた。
- ・地域の方々、出店者の方々をまきこんだ盛大なフィナーレを実施し、一体感を感じ取っていた。

【課題】

- ・平成20年度より、参加者の人数が減少している。広報の仕方やプログラムの見直し等を図っていく必要がある。

事業概要

目的

中国ブロック内の国立青少年教育施設（吉備・山口徳地・江田島・三瓶）が連携して役割を分担し、小学生から大学生までの各年齢段階に合致したリーダー的力量を形成するプログラムを開発する。

背景

青少年の現状・生活実態

意欲の欠如 自己肯定感の低さ 希薄な対人関係 直接体験の少なさ
「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」（中教審答申H19.1.30）より

「体験活動を通した青少年の自立」

青少年教育施設による体験活動の提供

ねらい

自己肯定感をもった自立的人間として社会に参画できる態度を形成することを目指す

自立的・協働的なリーダー的力量の形成

1年目

- ・各年齢期に応じたプログラムの検討
- ・調査方法の確立
- ・プログラムの実施

2年目

- ・発達段階の検討
- ・リーダーに必要な要素をふまえた事業実施
- ・モデルプログラム案作成

3年目

- ・実施成果のまとめ
- ・モデルプログラム検証
- ・報告書作成

発信・普及

モデルプログラム

年齢段階	発達段階	自立的・協働的なリーダー的力量を形成するための課題	自立的・協働的なリーダー的力量を形成することで期待される具体的な能力・態度			モデルプログラム	
			個の確立 新しい自己の発見	自立力 対人関係能力の見直し・育成	社会参画力 社会参画意欲の向上	手法 (実施施設)	指導内容
小学生	自己肯定感の受け皿育み期	周りから受け入れられているという安心感を持つ。	自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。	思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。	社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。	意図的直接体験の場の設定 吉備青少年自然の家	ソロ体験 カッター活動 野外炊事 暗闇体験 カブラ
中学生	自己認識・他者認識の深化期	仲間を意識し関わる中で、集団の中での自分の安定した位置を実感する。	自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。	他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。	自分の役割やその進め方、よりよい集団生活のための役割分担やその方法等が分かる。	コミュニケーション能力育成 山口徳地青少年自然の家	チャレンジプログラム（PA） グループハイキング 課題解決学習（ラボ） ボランティア活動学習
高校生	社会参画に向けた自己実現助走期	社会における将来の自分を意識し、集団の中でモデル的行動をとる。	自己の能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。	自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。	学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚したり、ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解したりする。	モデリング 間接的指導 江田島青少年交流の家	班リーダーとしての活動 地域リーダーによる演習 カッター研修 社会参画演習
大学生	社会参画による自己実現試行期	地域社会の中で、自分の実現したいことを企画・運営や発信などして、地域貢献をしていく。	主体を持ち、場合によっては、指導者の立場をとることができる。	地域社会のつながりを考えた対人関係がとれる。	地域をまきこんだ社会貢献が進んでできる。	自立尊重的指導 三瓶青少年交流の家	グループワーク登山 実行委員会の立ち上げ 地域イベントの企画・運営

平成22年3月発行

編集・発行 中国ブロック統合のメリットを活かした事業 事務局（国立江田島青少年交流の家）

〒737-2126 広島県江田島市江田島町津久茂1-1-1

TEL 0823-42-0660 FAX0823-42-0664



1. 事業の趣旨

主体的に社会に参画しようとしている青年を対象に、地域社会とつながる事業企画の立案を通して問題解決能力や合意形成能力等を身に付け、よりよい社会づくりに貢献できるリーダーの育成を図る。また、身に付けた問題解決能力・コミュニケーション能力等や社会参画への意欲を、その実現に向けた準備や運営を通してさらに高めることにより、次代のリーダーとして創造的で活力に満ちた社会の実現に必要な資質を高める学びの場を提供する。

2. 事業の概要

(1) 日程

【①企画力・運営力アップセミナー編】

7/6 (金)	19:00 19:30				21:00	
		受付	オープニング	講義・実習① 「ねらいの共有」 ～昨年度の事例をもとに～	入浴	就寝

7/7 (土)	6:30		9:00		12:00 13:00		17:10		19:00		21:00	
	起床	朝食	朝食	講義・実習② 「企画力運営力を高めよう」	昼食	実習③ 「夢ステージのテーマ決め」	夕食	夕食	実習④ 「夢ステージに向けた企画の作成」	入浴	就寝	

7/8 (日)	6:30		9:00		12:00 13:00		14:30		16:00	
	起床	朝食	朝食	講義・実習⑤ 「企画のブラッシュアップ」	昼食	実習⑥ 「企画の発表・お互いで評価」	ふりかえり	わかちあい	解散	

【②企画会議（実行委員会）編】

1 日 目	12:00 13:00										17:10		19:00		21:00	
		受 付	実習① 夢ステージ企画について の話し合い①			つ ど い	タ 食	実習② 夢ステージ企画について の話し合い②			入 浴	就 寝				

2 日 目	6:30		9:00		12:00 13:00		14:30		15:30	
	起 床	つ ど い	朝 食	実習③ 夢ステージ企画につ いての話し合い③	昼 食	実習④ 夢ステージ企画につ いての話し合い④	ふりかえり わかちあい	解 散		

【③企画・運営本番編】

10/26 (金)	19:00 19:30						21:00	
		受 付	オープ ニング	企画運営の準備① 「ねらいの共有・夢ステージの 準備」		入 浴	就 寝	

		6:30 9:00		12:00 13:00		17:00 19:00		21:00	
10/27 (土)	起 床	朝 食	企画運営の準備②	昼 食	夢ステージ本番①	タ 食	今日のふりかえり わかちあい 企画運営の準備③	入 浴	就 寝

10/28 (日)	6:30 8:30		14:30		15:00	16:00
	起 床	朝 食	夢ステージ本番②	フィナーレ	ふりかえり わかちあい	解 散

（２）募集対象・人数 大学生（短期・専門学校を含む），社会人

①企画力・運営力アップセミナー編 20人

②企画会議（実行委員会）編 35人（各回とも）

③企画・運営本番編 35人

（３）参加者

①企画力・運営力アップセミナー編 18人

②企画会議（実行委員会）編 84人（合計）

（第1回：20人，第2回：18人，第3回：17人，第4回：7人，第5回：22人）

③企画・運営本番編 37人

(4) 講師

①企画力・運営力アップセミナー編 名賀 亨 氏（華頂短期大学准教授）

(5) 企画のポイント

「さんべ夢ステージ」は、「ボランティア入門セミナー」「ボランティアスキルアップセミナー」と連携した事業であり、これまでに身に付けた力を実践の中で試し、さらに自分を高めていくことをねらいとしている。特に「リーダーシップ」を意識して行動することにより、リーダーとしての資質を高め、地域社会でリーダーとして活躍する素地を作ることがねらいである。平成18年度のふりかえりの中で、平成19年度の夢ステージには企画の段階から参加したいとの希望がでており、中心メンバーとなるであろう法人ボランティア数名をロールモデルとすることで、青年が一から作り上げる企画となるようにした。

(6) 運営のポイント

【①企画力・運営力アップセミナー編】

プログラムの進行については、体験的な学びを大事にしたいため、講師と相談しながら参加者の状況を十分見極めて進行した。

【②企画会議（実行委員会）編】

運営のキーワードを「自立尊重的指導」とし、参加者の主体性を引き出し、リーダーシップを意識して行動するよう仕掛けた。

【③企画・運営本番編】

「自立尊重的指導」に「臨機応変」をプラスすることで、より一層のリーダーとしての資質向上を図る実践ができるように工夫した。

3. 活動の内容等

- ・本事業は、当施設が培ってきた青年のリーダー的資質の習得を総括的に表現するものである。
- ・ボランティアリーダー養成事業をはじめとする、グループワークトレーニングによるリーダー的資質の習得を具体的・実践的に表現する事業である。
- ・青年の参画を推進し、事業当日だけでなく実践に向けた検討会・準備・ふりかえりを重視する。
- ・青年の社会参画を率い、「新しい公共」の構築を基調とする次代のリーダーを育成する事業である。

【①企画力・運営力アップセミナー編】

企画・運営に関する学びを深めること、リーダーシップについて体験を通して気付き・考え、自分なりの答えを見付けることをねらいとして2泊3日で実施した。講師は、華頂短期大学准教授の名賀亨先生を招へいた。4時間超にわたる「テーマ決め」では、合意形成・問題解決・リーダーシップについて体験的に学習した。また、アクションプランを作成することで、今回の学びをより深め、そのプロセスを意識することで、リーダーの資質向上を図った。



ねらいの共有の一場面



4時間にわたるテーマ決め



企画のブラッシュアップ

夢ステージに向けての、具体的な企画を作り上げることが一義的なねらいである。そして、そのプロセスを大切にすることで「リーダーシップ」に関する気づきや学びを深め、身に付けることをねらった。「私とあなた～未来につなげるために～」のテーマのもと、「学校」「環境」「ふるさと」をキーワードに企画を練り上げた。



リーダーシップを体感中



本番に向けての試作



企画のプレゼンの様子

【③企画・運営本番編】

- ・「わくわくどきどき体験スクール i n さんべ」：三瓶での自然体験学校「S A N 年 b e 組」を開校
- ・「島根一周ふるさ T r i p」：ウォークラリー形式でふるさとの良さを再発見
- ・「エコメンパラダイス計画」：環境戦隊シゲンジャー登場！！マイバッグ・マイはし作りなど

以上、3つの企画を実施した。「臨機応変」をキーワードに、さまざまな学びがあった。「さんべ祭」とリンクすることで、青年の社会参画・情報発信の場を設定し、参加した青年たちのモチベーションも大幅にアップした様子である。



島根一周ふるさ T r i p



シゲンジャーとゴミゴンの戦い



火おこしの体験中



本番は“気合だ～！！”



感動的なフィナーレの一場面



最後の最後まで入念な準備

4. 事業の成果等

(1) 成果等

【①企画力・運営力アップセミナー編】

ふりかえり・わかちあいの場面で参加者一人ひとりの吐露を全員が受け止め共有できたこと、また、そのわかちあいを受けて夢ステージ本番に向けてのモチベーションが大幅に向上したことが成

果である。今後の課題としては、ボランティアリーダー養成事業の一環としても位置付けているので、できるだけ島根大学以外からの参加者を得ることが必要である。

【②企画会議（実行委員会）編】

第1回から第5回まで、毎回集まるメンバーがそれぞれ違う中で、1つのものを作り上げていく困難さを乗り越え、さんべ夢ステージボランティアチームとしての成長（連帯感や意識の向上等）を見ることができたことが成果である。今後の課題としては、実行委員会の参加者がその都度異なるメンバーとなることのメリットとデメリットを、検討することが必要である。

【③企画・運営本番編】

「さんべ祭」本番を運営する中で、臨機応変な対応を迫られる場面が多く見られ、様々な気づきや学びがあった様子がふりかえりシートから伺えた。また、ふりかえり・わかちあいの場面を通して、参加者自身が自己変容を十分認識していることが伺えたことも大きな成果である。今後の課題としては、本番のみの参加者への配慮など、温度差のある参加者をどのようにまとめていくのかを検討することが必要である。

（2）アンケートの満足度・主な記述

【①企画力・運営力アップセミナー編】

満足度（アンケート回答者18人中） 大変良かった16人（89%） 良かった2人（11%）

- ・3日間の活動でしたが、内容が深く企画とは？意見をどのようにまとめたり広げたりしていくのが勉強になりました。
- ・さんべ祭・夢ステージを今回も成功させたいと思った。
- ・企画していくのはとても大変だなと思った。
- ・やっぱり三瓶は様々な成長が見られる場だと思いました。
- ・今回も自分がまた違う一歩を踏み出して新しい気づきがたくさんあってとてもよかったと思います。

【②企画会議（実行委員会）編】

満足度（アンケート回答者82人中） 大変良かった53人（65%） 良かった28人（34%）

- ・楽しさあり、真面目ありの充実したプログラムだった。
- ・Good Job!! Thank You!!
- ・三瓶での活動は、自分の中でどんどん大きい存在になっています。
- ・もっともっと時間がほしい・・・仕方ないけど・・・
- ・すごしやすい雰囲気がいつも感じれるのでありがたいです。
- ・職員の方とのキョリの近さが程よいと思います。

【③企画・運営本番編】

満足度（アンケート回答者37人中） 大変良かった33人（89%） 良かった4人（11%）

- ・夢ステージ最高!! これからもずっと続いてほしい。
- ・最高でした!! ありがとうございました。
- ・疲れたけどすごく良い経験ができました。ありがとうございました。
- ・当日（さんべ祭）参加だったので、正直ずっとやってきた人との意思の疎通とかに問題があったと思う。

5. 事業の総括

4ヵ月間、43名延べ139人の青年がこの事業に参加した。長くしんどい時もあった。でも、すごく楽しかった。夢ステージの最後の場面で、青年たちがみんなで合唱をしているのを見たとき、企画の3つの要素である、must・can・wantがひとつに重なったように思う。

青年たちは、事業の回数を重ねるごとに表情がどんどん良くなり、リーダーシップを発揮して活動する場面を見ることが増えた。毎回のふりかえり・わかちあいの場面では、青年たちが吐露した言葉に熱いものがこみあげてきた。また、ふりかえりシートに目を通す度に、「良い学びがあった。確実に成長していつている。」ということを確認することができた。

夢ステージには、青少年の成長に必要な4つの要素である、

1. 熱中（時間を忘れて過ごす場）
2. 緊張（ドキドキヒヤヒヤ感）
3. 受容（安心して過ごせる場）
4. 達成（成長の喜びを感じることができる場）

が全てあった。そして、人とのつながり・信頼感・達成感・熱い思い・ぶつかり合い・成長がみられた。自立尊重的指導を貫くことによって「夢ステージ」が青年たち自身のものになり、青年たちは大きく成長していった。

企画事業

「さんべ夢ステージ ～スーパーリーダーになる！！～」

【①企画力・運営力アップセミナー編】

平成20年 7月 4日（金）～ 7月 6日（日）

【②ドンドン企画がカタチになる編】

第1回 平成20年 8月30日（土）～ 8月31日（日）

第2回 平成20年 9月16日（火）～ 9月17日（水）

第3回 平成20年 9月29日（月）～ 9月30日（火）

第4回 平成20年10月18日（土）～10月19日（日）

【③企画・運営本番編】

平成20年10月24日（金）～10月26日（日）

1. 事業の趣旨

主体的に社会に参画しようとする青年を対象に、事業の企画・運営を通してリーダーシップを身に付け、将来のリーダーとなるための体験を通した学びを提供する事業である。「リーダーシップ」をキーワードに、企画・運営の様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返す中で、対人関係能力等リーダーとして必要な資質の向上を図ることをねらいとしている。

平成20年度は、メッセージ性の強いものやさんべ祭の来場者の視点から企画を検討することとした。

2. 事業の概要

（1）日程

【①企画力・運営力アップセミナー編】

7/4 (金)	20:00 20:15 20:30 21:30					
		受 付	オープ ニング	「アイスブレイク」 「ねらいの共有」 ～昨年度の事例発表～	入 浴	就 寝

7/5 (土)	6:30		9:00		12:00 13:00		15:00		17:10		19:00		21:00	
	起 床	つ ど い	朝 食	講義・実習① 「企画力とは」 「企画のポイント」	昼 食	講義・実習② 「企画から運営へ」	実習① 「企画を形に」	つ ど い	夕 食	実習② 「アクションプ ランの作成①」	入 浴	就 寝		

7/6 (日)	6:30 9:00		12:00 13:00		14:30		16:00	
	起 床	つ ど い	朝 食	実習③ 「アクションプランの作 成②～ブラッシュアップ」	昼 食	実習④ 「アクションプランの作 成③～発表・評価」	クロー ジング ふりか えり わかち あい	解 散

【②ドンドン企画がカタチになる編】

1 日 目	12:30 13:00 14:00 17:10 19:00 21:00													
				受 付	オ ー プ ニ ン グ	実習① 夢ステージ企画につ いての話し合い①		っ ど い	タ 食	実習② 夢ステージ企画につ いての話し合い②		入 浴	就 寝	
2 日 目	6:30 9:00 12:00 13:00 14:00 15:00													
	起 床	っ ど い	朝 食	実習③ 夢ステージ企画につ いての話し合い③		昼 食	実習④ 夢ステージ企画につ いての話し合い④		クロージング ふりかえり わかちあい		解 散			

【③企画・運営本番編】

10/24 (金)	20:30		21:00		22:30	
		受 付	オ ー プ ニ ン グ	企画運営の準備① 「ねらいの共有・夢ステージの 準備」	入 浴	就 寝

	6:30		9:00		11:00		17:30		19:00		21:00		
10/25 (土)	起 床	朝 食	企画運営の準備②		夢ステージ本番① 後片付け等		タ 食	今日のふりかえり わかちあい 企画運営の準備③				入 浴	就 寝

10/26 (日)	6:30 8:30		10:00		15:30		17:00	
	起 床	朝 食	企画運営の準備④	夢ステージ本番②	クロージング ふりかえり わかちあい	解 散		

(2) 募集対象・人数 大学生(短期・専門学校を含む), 社会人

- ①企画力・運営力アップセミナー編 20人
- ②ドンドン企画がカタチになる編 30人(各回とも)
- ③企画・運営本番編 30人

(3) 参加者

- ①企画力・運営力アップセミナー編 28人
- ②ドンドン企画がカタチになる編 53人(合計)
(第1回: 8人, 第2回: 11人, 第3回: 17人, 第4回: 17人)
- ③企画運営本番編 32人

(4) 講師

- ①企画力・運営力アップセミナー編 池田 尚 氏(諫早市役所「こどもの城」準備室室長)

(5) 企画のポイント

平成20年度は、企画・運営におけるポイントを理解して、実際にさんべ祭での企画を立案から運営まで体験すると同時に、さんべ祭自体の企画・運営にも関わっていく。また、あらかじめ「リーダーシップ」について講義的に指導するのではなく、企画を成功に導く過程において、コミュニケーション能力・合意形成能力・問題解決能力等を必要とする場面を体験することにより、良きリーダーシップについての学びを深めて、今後自分の身の回りで発揮できるようにする。更に、平成20年度は、さんべ祭に来る人たちの視点から企画を検討し、広報やより強いメッセージを発信することにも力を入れたい。

(6) 運営のポイント

【①企画力・運営力アップセミナー編】

参加者のモチベーションを第一に考え、参加者の状況を十分に確認しながら、講師と共に活動を検討し、その状況に合った柔軟なプログラム展開ができるようにした。

【②ドンドン企画がカタチになる編及び③企画・運営本番編】

リーダー格の参加者に伝えるべきことを伝える以外は、あくまでも支援者として関わることを基本的なスタンスとした。また、企画力・運営力アップセミナー編で出てきた企画の幹になる部分と参加者の想いの部分を引き継ぐと同時に、新たな参加者の想いが上手く融合するように配慮した。

3. 活動の内容等

「リーダーシップ」をキーワードとして、事業企画・運営のプロセスで合意形成能力・問題解決能力等の向上を図り、様々な体験を通してリーダーシップを身に付けようとするものである。企画に関するフレーム作りを行った後は「さんべ夢ステージ」の事業運営をできるかぎり参加者に任せることで、参加者自身のモチベーションを高めて主体性を引き出し、体験を通しての深い気づき・学びの場を提供する。また、広報・普及事業「さんべ祭」を夢ステージの発表の場とすることで、青年が社会に向けて情報発信をする場を提供し、社会参画への意欲を高めると同時に次代のリーダーとしてより良い社会の実現に必要な資質を高める学びの場を提供するものである。更には「まつり」を発表の場とすることで、準備段階での意欲・事業終了時の達成感等を高めるなどの効果を生み出し、広報・普及事業としての「まつり」を有効活用する事業である。

【①企画力・運営力アップセミナー編】

講師に池田尚先生を招へいし、6W2Hなど企画・運営に関する基本的な事項から実際に企画を実現するための重要なポイントについて豊富な経験をもとに指導していただいた。また、講義だけでなく、参加者のモチベーションを高め、リーダーシップについて体験的に学べるようなアクティビティが行われた。その後、グループに分かれてアクションプランの作成の時間となり、ここからプレゼンテーションまではグループの自主的な活動となった。



自己紹介+ねらいの共有の場面



グループごとのプレゼンテーション



風船を使ったアクティビティ

【②ドンドン企画がカタチになる編】

この編からさんべ祭当日まで、参加者が日程や活動内容等を決めて主体的に取り組む形となり、職員は必要ときのみ助言を与えるサポート的役割に徹した。前回のセミナー参加者の想いを引き継ぎながら、「暮らしを見つめなおすきっかけ」という全体テーマのもと、資源（ステージ）・食・自然の3つのグループに分かれて活動が行われた。



紙すきの練習をしているところ



そば打ちの練習をしているところ



自転車発電の実験をしているところ

【③企画・運営本番編】

本番まで練り上げられた企画は、次の通りである。

○資源（ステージ班）：自転車発電、写真でつなごうしりとり駅伝、その他ステージの司会進行

○食：そばの由来の劇、そば打ち体験

○自然：落ち葉アート、紙ヒコーキ大会、松ぼっくり合戦、紙すき体験（作った手紙を大切な人へ書く）



そばの由来等を伝える劇



自転車発電を体験している親子



紙すきで作った葉書に絵を描いている様子



そば打ちにチャレンジする子どもたち



しりとり駅伝の完成図

4. 事業の成果等

(1) 成果等

【①企画力・運営力アップセミナー編】

平成20年度は、企画・運営の基本的知識を学ぶだけでなく、実際に企画していく際に陥りやすい点や視野を広げる方法など具体的な手段を体験的に学ぶことができた。また、平成18・19年度に比べ、島根大学以外の参加者が多かったこともあり、過去に参加経験のある参加者の既成概念に大きな刺激を与え、リーダーシップについても改めて考え直す機会となった。

平成19年度に比べ、島根大学以外からの参加があったが、まだその数が少ないので更に人数を確保していく必要がある。今回も大学の集中講義でプログラム全過程を消化できない参加者がいたので、日時の再検討も必要である。

【②ドンドン企画がカタチになる編及び③企画・運営本番編】

企画力・運営力アップセミナー当日だけではなく、大学でもボランティアリーダーが指示を出し、全体会及びグループ別活動の時間を頻繁にもったり、参加者を募集し増やしたりと主体的かつ組織的な活動に発展した。また、平成20年度はグループ同士や他のさんべ祭の参加団体との横のつながりも重視するなど、リーダーとして重要な資質である視野の広さを学ぶ良い体験となった。

一連の活動では、幅広い参加者の想いは引き継いだものの、最終的には島根大学教育学部の学生しか参加できなかったもので、更なる広報や日程の調整を綿密に行う必要がある。

(2) アンケートの満足度・主な記述

【①企画力・運営力アップセミナー編】

満足度（アンケート回答者28人中）満足20人（71%）やや満足8人（29%）

- ・自分の目標が達成できたり、新たに課題が見つかったりしました。
- ・刺激的だった。来てよかった。
- ・新しい考え方やものの見方を知ることができました。
- ・時間も丁度よかったと思います。利用者同士の交流ももてました。
- ・「企画」というものについて改めて考えさせられました。さんべ祭・夢ステージを今回も成功させたいと思った。

【②ドンドン企画がカタチになる編】

満足度（アンケート回答者53人中）満足30人（57%）やや満足20人（38%）

やや不満3人（5%）

- ・普段とは違った活動ができました。
- ・とても充実していた。
- ・成長できると思う。
- ・困ったときに助かる助言をしていただきよかった。
- ・本番のさんべ祭で人を楽しませることと同時に自分も楽しみ。
- ・また来年も来たいと思ってもらえるものにしたいと思った。

【③企画・運営本番編】

満足度（アンケート回答者32人中）満足25人（78%）やや満足6人（19%）

やや不満1人（3%）

- ・参加してよかった。
- ・ボラ全体がまとまった。

- ・環境というものをテーマにして良かった。
- ・とても多くの人と関わられた。
- ・来る人来る人笑顔になったので良かったと思います。
- ・大変だったが、お客さんの笑顔がうれしかった。
- ・臨機応変にできた。
- ・とても大変でしたが最後までやってきてよかった。
- ・お世話になりました。ありがとうございました。

5. 事業の総括

本事業は、今回で3年目ということで、過去2年間で作られた固定概念をあえて見つめ直すところから始まり、参加者にとってはかなり不安や困難もあったが、結果的にはリーダーとしての視野の広さや連携の必要性等多くのことを学ぶことのできる事業であったと思われる。

企画の派手さや華やかさのみを追及するのではなく、この企画で人々に何を伝えたいのか、何を大切にしたいのかが「さんべ祭」本番でぶれることなく感じられた。特に、今まではあまり積極的でなかった外部からの参加団体を巻き込んだ雨の中でのエンディングは印象的であった。

青年たちの純粋でひたむきな活動にずっと立会い、担当者でありながら逆に「リーダーシップ」について考えさせられた事業であった。



さんべ祭エンディングの円陣



企画事業

「さんべ夢ステージ ~君こそが、未来のリーダーだ!~」

【①企画力・運営力アップセミナー編】

平成21年 7月 3日(金) ~ 7月 5日(日)

【②想いを形にする編】

第1回 平成21年 8月22日(土) ~ 8月23日(日)

第2回 平成21年 9月14日(月) ~ 9月15日(火)

第3回 平成21年 9月29日(火) ~ 9月30日(水)

第4回 平成21年10月 3日(土) ~ 10月 4日(日)

第5回 平成21年10月16日(金) ~ 10月18日(日)

【③夢が現実になる本番編】

平成21年10月23日(金) ~ 10月25日(日)

1. 事業の趣旨

主体的に社会に参画しようとする青年を対象に、事業の企画・運営を通してリーダーシップを身に付け、将来のリーダーとなるための体験を通した学びを提供する事業である。「リーダーシップ」をキーワードに、企画・運営の様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返す中で、対人関係能力等リーダーとして必要な資質の向上を図ることをねらいとしている。

平成21年度は、社会へメッセージを発信していくと共に、青年がリーダー的力の形成を図りながら社会参画できるようにした。

2. 事業の概要

(1) 日程

【①企画力・運営力アップセミナー編】

7/3 (金)	20:00		20:30		21:30 23:00	
		受付	オープニング	講義・実習① 「ねらいの共有」 ～昨年度の事例発表～	入浴	就寝

7/4 (土)	6:30	9:00	12:00 13:00	17:10	19:00	21:00
	起床	朝食	講義・実習② 「企画力とは？」 「企画のポイント」	昼食	実習③ 「企画から運営へ」 「企画をカタチに!!」	夕食 「アクションプランの作成①」 入浴 就寝

7/5 (日)	6:30	9:00	12:00 13:00	15:00	16:00
	起床	朝食	講義・実習⑤ 「アクションプランの作成②」	昼食 講義・実習⑥ 「アクションプランの発表・評価」	クロージング 解散

【②想いを形にする編】

1 日 目	12:30 13:00 14:00 17:10 19:00 21:00									
		受 付	オープ ニ ン グ	実習① 夢ステージ企画につ いての話し合い①	つ ど い	タ 食 い	実習② 夢ステージ企画につ いての話し合い②	入 浴	就 寝	
2 日 目	6:30 9:00 12:00 13:00 14:00 15:00									
	起 床	つ ど い	朝 食	実習③ 夢ステージ企画につ いての話し合い③	昼 食	実習④ 夢ステージ企画につ いての話し合い④	クロー ジ ン グ ふ り か え り わ か ち あ い	解 散		

【③夢が現実になる本番編】

10/23 (金)	20:00 20:30 21:30 23:00									
					受 付	オープ ニ ン グ 企 画 運 営 の 準 備 ①		入 浴	就 寝	

10/24 (土)	6:30 9:00 11:00 16:00 17:30 19:00 21:00									
	起 床	つ ど い	朝 食	企 画 運 営 の 準 備 ②	「さんべ祭」本番①	後片付け 明日の準 備等	タ 食 休	今日 の ふ り か え り 企 画 運 営 の 準 備 ③ 交 流 会 等	入 浴	就 寝

10/25 (日)	6:30 9:00 14:30 15:00 16:00									
	起 床	つ ど い	朝 食	「さんべ祭」本番②	後片付け	クロー ジ ン グ	解 散			

(2) 募集対象・人数 大学生(短期・専門学校を含む), 社会人

- ①企画力・運営力アップセミナー編 20人
- ②想いを形にする編 30人(各回とも)
- ③夢が現実になる本番編 30人

(3) 参加者

- ①企画力・運営力アップセミナー編 21人
- ②想いを形にする編 51人(合計)
(第1回:11人, 第2回:8人, 第3回:9人, 第4回:8人, 第5回:15人)
- ③夢が現実になる本番編 31人

(4) 講師

- ①企画力・運営力アップセミナー編 西田真哉 氏(トヨタ白川郷自然学校長)
(元国立三瓶青少年交流の家所長)

(5) 企画のポイント

企画・運営におけるポイントを、企画力・運営力アップセミナー編での講師の講義等により理解し、それを活かしながら実際にさんべ祭自体の企画・運営に関わっていく。また、「リーダーシップ」については講義的に指導せず、企画を成功に導く過程において、コミュニケーション能力・合意形成能力・問題解決能力等を必要とする場面を体験することにより、リーダー的力の形成を図るための学びを深め、今後自分の身の回りで発揮できるようにする。

(6) 運営のポイント

【①企画力・運営力アップセミナー編】

参加者のモチベーションを第一に考え、参加者の状況を十分に確認しながら講師と共に活動を検討し、状況に合った柔軟なプログラム展開ができるようにした。

【②想いを形にする編及び③夢が現実になる本番編】

リーダー格の参加者に伝えるべきことを伝える以外は、あくまでも支援者として関わることを基本的なスタンスとした。また、企画力・運営力アップセミナー編で出てきた企画の幹になる部分と参加者の想いの部分を引き継ぐと同時に、新たな参加者の想いが上手く融合するように配慮した。

3. 活動の内容等

本事業は、3編シリーズとなっている。第1編は、企画・運営について学びを活かし、企画の骨格を作成する過程である。第2編では、企画を具体化・実現化していく過程で、第3編は、実際に企画を発表する過程になっており、長期的に様々な体験ができる場を設定している。企画を立てる過程から発表までの活動は参加者主体で行い、モチベーションを高めると共に、青年たちの可能性や創造力を最大限発揮できる形にしている（自立尊重的指導）。また、広報・普及事業「さんべ祭」をこの事業の発表の場とすることで、企画の運営を通して訪れた様々な人たちと接したり、想いを伝えたりすることで生の反応を実感でき、社会参画の意欲が高まると共に、次代のリーダーとしてよりよい社会の実現のための学びが獲得できる事業である。

【①企画力・運営力アップセミナー編】

講師に西田真哉先生を招へいした。企画・運営に関する基本的な事柄から、実際に企画を実現するための重要なポイントについて理論を体験的に学べるように、様々なアクティビティを通して指導していただいた。その後、グループに分かれてアクションプランの作成の時間となり、ここからプレゼンテーションまではグループの自主的な活動となった。



企画・運営についての講義



体験的なアクティビティ



アクティブなプレゼンテーション

【②想いを形にする編】

ここからさんべ祭当日まで、参加者が日程や活動内容等を決めて主体的に取り組む形となり、職員は必要と時のみ助言を与えるサポート的役割に徹していった。前回のセミナーの参加者の想いを引き継ぎながら、「結～自然とつながる Youme ステージ～」という全体テーマのもと、ステージ班・ス

ナッグゴルフ班・ギネス班・プラとんぼ班の4つのグループに分かれて活動が行われた。



職員に対するプレゼンテーション



スナッグゴルフ班の試行



プラとんぼ班の試行



試行錯誤のギネス班



サイエンジャーの試行をするステージ班



情報の共有化をする全体会

【③夢が現実になる本番編】

本番までに練り上げられた企画は、次の通りである。

○ギネス班：自転車発電を通して省エネルギーを考えるきっかけを作る。

○スナッグゴルフ班：スナッグゴルフを通して家族の絆を深める。

○ステージ班：「大切な人に想いを伝えよう」をコンセプトにしたステージ企画を立案・運営する。

○プラとんぼ班：様々な工夫で「プラとんぼ」の楽しさを子どもたちに体験させる。

各班の企画をコラボレーションさせるため、「夢ステラリー」と題したスタンプラリーや記録に挑戦する「ギネス認定」などの工夫を行った。



ギネス班の自転車発電の様子



参加の呼びかけをするスナッグゴルフ班



プラとんぼの楽しさを体験



大人気だったサイエンジャースhow



老若男女が一体となった感動のフィナーレ

4. 事業の成果等

(1) 成果等

【①企画力・運営力アップセミナー編】

参加者は、講師の体験的なアクティビティから、企画・運営に関する必要な知識を身に付け、企画・運営に必要な様々な能力（コミュニケーション能力・合意形成能力・問題解決能力等）を高めることができた。また、さんべ祭に向けての企画の概要や実現に向けての組織づくりやネットワークづくりなど具体的な動きを作ることができた。

【②想いを形にする編】

過去4年間の中では一番参加者が少なかったが、少人数の特性を活かして全体での話し合いを頻繁に行うことによって、情報の共有化や問題点の克服を行い、主体的かつ組織的な活動を展開することができた。

【③夢が現実になる本番編】

参加者は、自らのネットワークを十分に活用して、当日の企画運営に必要なスタッフを確保した。各班同士や、他のさんべ祭の参加団体とのつながりを深め、保育園児から高齢者までが一体となったさんべ祭を創りあげることができた。地域や出店者の方々を巻き込んだ盛大なフィナーレを実施し、一体感を感じ取り、参加者一人ひとりが「未来のリーダー」となっていた。また、地域の方々から、「大学生がさんべ祭の企画・運営に一生懸命参画している姿を見て、元気や勇気をもらった。」という評価を聞くことができた。

(2) 実施後の聞き取り（アンケート）の満足度・主な記述

【①企画力・運営力アップセミナー編】

満足度（アンケート回答者21人中）満足13人（62%）やや満足7人（33%）
やや不満1人（5%）

- ・今回は、企画力・運営力アップセミナーであったので、主に部屋での講義やグループワークが多かったと思います。しかし、よりよいアイデアや話し合いを進めていくためには体を動かすことも少しは必要でないかと思いました。
- ・とても内容の濃い4日間でした。企画の難しさや、先輩方の目線・意見を勉強することができました。また、職員さんともお話しして、よいアドバイスをたくさんいただきました。
- ・本番は、参加できないが、今回のセミナーで参加したくなった。
- ・これからの“人集め”大変でしょうけど・・・がんばってくださいネ。10月の本番は、できるかぎり・・・これますように！！

【②想いを形にする編】

満足度（アンケート回答者51人中）満足26人（51%）やや満足21人（41%）
やや不満4人（8%）

- ・とても充実していました。内容の濃い2日間でした。
- ・自分の力量不足を感じました。
- ・とても楽しく学びの多いものになった。
- ・仲間のありがたさを実感できた。
- ・話し合いの仕方には少し改善点は見られました。
- ・楽しかった。自分たちで考えて、自由に動けたので有意義だった。
- ・時間に余裕をもって活動できた。自分たちのやりたいことができた。
- ・職員さんの目線で貴重なご意見をありがとうございました。

- ・色々な道具が次から次と貸してもらえ、活動しやすかった。
- ・初めて参加しましたが、とても楽しく活動することができました。

【③夢が現実になる本番編】

満足度（アンケート回答者31人中）満足23人（74%）やや満足7人（23%）
やや不満1人（3%）

- ・自分たちのやりたいことが形になったと思います。ありがとうございました。
- ・今回できなかったこと、中途半端だったこと、次こそはやりきる！！
- ・たくさんのことを学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・子どもから大人まで非常に楽しそうに活動されていて、自分も元気になりました。参加してよかったです。
- ・参加者みんなで作るお祭り、という感じがよかったです。
- ・参加してよかったです。ありがとうございました。

5. 事業の総括

平成19年度・平成20年度に比べ、1・2回生の参加者数の減少が著しく「企画力・運営力アップセミナー編」が終了した時点では、過去3年間のような学生企画が実施できるか不安が大きかった。しかし、参加者は、島根大学松江キャンパス内で独自に全体会や各班ごとの話し合いを重ね、情報の共有化（メーリングリストの活用）や問題点の克服を行った。また、自分たちのネットワークを活用して、さんべ祭当日には企画の運営に必要なスタッフを確保し、夢を現実にしていく本番を参加者自身の力で創りあげていった姿はとても印象的であった。そして、さんべ祭に参画している他の団体にさんべ祭のフィナーレへの参加を呼びかけ、保育園児、若者、高齢者といった様々な年齢層の代表者がさんべ祭の感想を発表し、老若男女が一体となり感動のフィナーレを迎えることができた。

さんべ祭の実施より4ヶ月後に、参加者に聞き取りを行った。その結果、さんべ祭がきっかけとなり社会参画（ボランティア活動や公民館活動への参加）をするようになったという、うれしい報告を3人より聞くことができた。現在は、まだ実行できていないけど、今後してみたいという意欲をもった参加者が全体の6割いた。反対に社会参画できていない理由としては、「まだ自信がない。もう少し、時間が必要である。意欲はあるけど、実際にどこにどのように働きかけたらよいか分からない。」などの意見があった。

参加者自身が、企画立案から運営まで携わり創りあげた「さんべ祭」であった。参加者は、来場者や関係者からたくさんの肯定的な評価を受けることができた。そのことが参加者の自信となり、さらなる社会参画につながっていくものと考ええる。また、このさんべ夢ステージボランティアとして活動していた青年たちが公立小学校の教員等になり、社会で主体的に活躍している。



最高の笑顔の参加者たち！！